

第6編 路線バスに1日乗り続ける



大村 猛

OHMURA Takeshi

川崎地質(株)

大谷石採取場跡地観測所



フリーきっぷで旅に出る

バス路線は、鉄道路線と比較して運賃（バス料金）が割高になる傾向があり、いろいろなバス路線に乗ろうとするときにためらってしまいがちです。そこでバス事業者では、例えば往復割引などの優遇を行い、お得にバスに乗れる様々な施策を打ち出しています。

その中で、特にバスファンに人気があるのが、一日乗車券などの「フリーきっぷ」とよばれる、定められた期間やエリアが乗り降り自由になる切符です。フリーきっぷは、現在多くの路線バス事業者で発売されており、私も愛用しています（笑）。

今回使用したフリーきっぷは、「東武バス創立20周年記念 土日1DAY PASS」という、東京都・埼玉県・千葉県に路線網を持つ「東武バスセントラル」と、埼玉県内に路線網を持つ「東武バスウエスト」の一般路線バスが大人500円で1日乗り降り自由の切符で、2002（平成14）年に東武鉄道から分社化されエリアごとにバス会社として独立してから20周年を記念して2023（令和5）年6月25日まで期間限定で発売されているものです。スマートフォンアプリでのみ購入が可能な「モバイルチケット」タイプの切符で、紙による切符の発行はありません。今回は、このフリーきっぷを使った旅行記を書いてみたいと思います。

1台目 東松山駅(7:47発)→川越駅

2023年某日の朝、私は東武東上線の東松山駅前にありました。今回のバス旅は、ここから始まります。

私を出迎えていたバスは、東武バスウエスト川越営業事務所所属の9892号車で、社番の千の位が奇数のため日野車であることがわかります。この車両は、2007（平成19）年式の日野ブルーリボンⅡ（PJ-KV234L1）で、製造から15年が経過しており、東武バスとしては古参の部類に属します。このバスが製造された当時は、OEM供給元のいすゞエルガとほぼ同一



東松山駅を発車する川越02系統川越駅行
東武バスウエスト9892号車（川越営業事務所所属、
日野ブルーリボンⅡワンステップ PJ-KV234L1）

の仕様となっており、ヘッドライトはいすゞの特徴である「縦目」になっています。バスの車体正面には、筆記体で「One-Step Bus」と書かれており、現在主流のノンステップバスではなく、出入口にステップが一段あるワンステップバスとよばれる今では貴重になりつつある車両でした。分社化された2002年から2010（平成22）年までに導入された車両には、バスの車体正面と側面、後面に「東武」とだけ書かれています。まずはこのバスに乗って、終点の川越駅を目指します。

「営業事務所」は、東武バスグループ独特の名称で、他の営業所を配下に置く拠点に付けられます。2023年現在、東武バスセントラルの足立、草加、西柏とウエストの大宮、川越、新座が営業事務所になっています。川越営業事務所の場合、坂戸営業所を配下の営業所に置いています。

東武東上線は、川越市～鶴ヶ島市～坂戸市～東松山市を結んでいますが、川越02系統は川越市～川島町～東松山市を結び、鉄道と異なるルートを結ぶことによって鉄道輸送を補完するポジションに立っています。



車窓から富士山を見ることができました

川越駅から途中の八幡団地までは、1時間当たり1～4本の頻度で運行されていますが、東松山駅まで進む便は、平日で1日8本（東松山駅発川越駅行、逆方向は1日7本）、土日祝日で1日5往復に限られます。全線を乗り通した時の所要時間は、1時間前後です。

富士山や小江戸川越の街並を眺めながら走る路線で、全区間乗り通した場合の片道運賃は現金640円（交通系ICカードで639円）でしたが、500円で1日乗り放題の切符を使用していたため、この時点で元を取りました（笑）。

終点の川越駅に到着すると、バスが1台佇んでいま

したが、正面の表示を見ると「宮下町循環」の文字がありました。この川越08系統宮下町循環線は、土日祝日に1便のみ運行される典型的な免許維持路線でした。次のバスに乗るまでに、時間があれば乗車してみたかったのですが、所要時間が読めなかったことから今回の乗車は断念しました。状況によっては、川越駅を発車してから川越駅に戻ってくるまでに30分程度かかる場合もあるそうです。今回は目的地までの距離が遠く、時間もかかることが想定されたため、予定のバスへの乗り遅れを回避するために予定通りのバスに乗ることにします。



約1時間で川越駅に到着。全区間乗り通した場合の片道運賃は現金640円（交通系ICカードで639円）



土日祝日に1本のみ運行される川越08系統宮下町循環に入る東武バスウエスト5289号車（川越営業事務所所属、日野ブルーリボンノンステップ2TG-KV290N3）

2台目 川越駅(9:15発)→上尾駅西口

2台目のバスは、東武バスウエスト上尾営業所所属の5133号車、2015（平成27）年式の日野ブルーリボンⅡ（QPG-KV234L3）で、1台目に付いていた社番9000番台が9999に達したため、5000番台を名乗っています。なお、東武バスは原則として社番の千の位が奇数(3000番台を除く)の車両は日野車ですが、2020（令和2）年に導入されたトヨタの燃料電池バス「SORA」が5277号車となっており、例外となっています。1台目のバスの8年後に導入された車両で、ノンステップバスのため車体正面の筆記体が「Non-Step Bus」になっています。車体はブルーリボンⅡの最終形態で、ヘッドライトがいすゞ車と異なる二灯配置になっています。車体には分社化前までの表記「東武バス」が復活しています。川越06系統は、途中、かつてバスを製造していたUDトラックスの本社・工場や、「川」とだけ書かれた珍しい停留所を通ります。区間便を含めた本数は、日祝日の昼で毎時3本以上ありますが、川越駅から上尾駅まで通しの便は、毎時1本以下になります。



川越駅を発車する川越06系統上尾駅西口行
東武バスウエスト5133号車（上尾営業所所属、
日野ブルーリボンⅡノンステップ QPG-KV234L3）



つぎは 川

3台目 上尾駅東口(10:12発) →大宮駅東口

上尾駅西口から徒歩で東口に移動すると、朝日自動車（菖蒲営業所）のバスが停まっていました。

朝日自動車は、東武鉄道グループのバス・タクシー事業を統括する事業者で、かつて東武鉄道直営だったバス路線の移管を受けて営業する会社の一つです。菖蒲営業所は、以前は東武バス上尾営業所菖蒲出張所でした。これから乗車する大51系統は、現在も東武バスウエストが運行しています。

3台目のバスは、東武バスウエスト大宮営業事務所所属の5154号車、2016（平成28）年式の日野ブルーリボン（QKG-KV290N1）で、先に乗車した2台目の5133号車と番号があまり変わりませんが、途中のモデルチェンジにより型式や愛称が変更になりました。バス車体も一部デザインが変更され、特にヘッドライト周辺が大きく変化しています。

大51系統は、ほぼ全区間でJR高崎線と並行していますが、昼間は平日10分間隔、土日祝日12分間隔で運転されており、比較的本数の多い系統です。



上尾駅東口で出発を待つ朝日自動車2344号車
（菖蒲営業所所属、いすゞエルガミオノンステップ SDG-LR290J1）



大宮駅東口に到着後、折り返し大51系統上尾駅東口行になる
東武バスウエスト5154号車（大宮営業事務所所属、
日野ブルーリボンノンステップ QKG-KV290N1）

● 4台目 大宮駅東口(11:02) →さいたま市立病院

大宮駅東口からは、大都23系統、さいたま市立病院行に乗ります。4台目のバスは、東武バスウエスト岩槻営業所所属の5323号車、2022（令和4）年式の日野ブルーリボン（2TG-KV290N3）で、昨年夏に導入されたばかりの新車でした。見た目は3台目のバスと大きな違いはありませんが、新車らしく車内外ともにピカピカでした。大都23系統は、概ね毎時1～2本が運行されています。



大宮駅東口にて待機中の大都23系統さいたま市立病院行
東武バスウエスト5323号車（岩槻営業所所属、
日野ブルーリボンノンステップ 2TG-KV290N3）

やってきたバスは、東武バスウエスト岩槻営業所所属の5128号車、2015（平成27）年式の日野ブルーリボンⅡ（QPG-KV234L3）で、先に乗車した2台目の5133号車と同じ年式です。かつては天沼営業所に所属しており、浦31系統も同営業所が担当していましたが、2022年に岩槻営業所に統合されました。

浦31系統は、日祝日でも毎時10本程度の高頻度運転が行われていますが、大部分が北浦和駅発着の便で、浦和駅発着便は昼間で毎時1～3本となり、早朝と夜間には運転されません。



浦和駅周辺は国際興業バスのエリアとなります
国際興業バス3229号車（西浦和営業所所属、
いすゞエルガノンステップ 2DG-LV290N2）

● 5台目 さいたま市立病院(11:45) →浦和駅西口

さいたま市立病院では、大宮駅・さいたま新都心駅方面と北浦和駅・浦和駅方面のバスの相互に乗り換えが可能です。このため、東松山から川越、上尾、大宮、浦和の各駅をバスだけで乗り継ぐことができました。鉄道利用よりもお金と時間はかかりますが、お得に乗ることができるフリーきっぷがあれば、このような乗り継ぎも楽しめます。



さいたま市立病院を発車する浦31系統浦和駅西口行
東武バスウエスト5128号車（岩槻営業所所属、
日野ブルーリボンⅡノンステップ QPG-KV234L3）

浦和駅は、主に国際興業バスのエリアとなっており、浦31系統のみ乗り入れの東武バスウエストとは、ここでお別れとなります。東武バスセントラルの路線バスは、浦和駅に近いところでは川口駅からの発車となりますので、鉄道を使って移動することにします。

● 6台目 川口駅東口(13:10)→草加駅西口



川口駅東口バス停に進入する川12系統新堀経由草加駅東口行
東武バスセントラル5314号車（草加営業事務所所属、
日野ブルーリボンノンステップ 2TG-KV290N3）

川口駅から乗車するバスは、東武バスセントラル草加営業事務所所属の5314号車、2022（令和4）年式の日野ブルーリボン（2TG-KV290N3）で、先に乗車した4台目の5323号車と同じ年式です。東武バスウエストとセントラルでは、バスの仕様の違いは特に見当たりませんが、バス車体側面後部には、それぞれの所属会社の記載があり、見分けられるようになっています。

川口駅と草加駅の間には、今回乗車した川12系統（新堀経由）のほかに、経由地の異なる川11系統（新郷支所経由）の2系統のバスが運行されています。これら2系統は、国際興業バスとの共同運行が行われています。共通定期券を所持している場合は、両社の運行便に乗車できますが、今回使用したフリーきっぷでは、国際興業バスの運行便には乗車できません。

7台目 草加駅東口（13:50）→八潮駅北口

草加駅西口から東口へ徒歩で移動して、八潮駅北口行のバスに乗り込みます。7台目のバスは、東武バスセントラル八潮営業所所属の5253号車、2019（令和元）年式の日野ブルーリボン（2TG-KV290N3）で、今回乗車した4台目や6台目と型式は同じですが、3年ほど先輩の車両となります。

草加駅東口と八潮駅を結ぶバスは、八潮駅北口行が草加01、草加03、草加04、草加06の4系統、八潮駅南口行が草加05の1系統、合計5系統あります。昼間の時間帯は、全系統を合わせて概ね毎時6本程度運行されています。



草加駅東口を発車する草加03系統伊草団地経由八潮駅北口行
東武バスセントラル5253号車（八潮営業所所属、
日野ブルーリボンノンステップ 2TG-KV290N3）

8台目 八潮駅南口（14:40）→亀有駅北口

八潮駅まで長らく埼玉県内を走行していた東武バスですが、八潮駅南口と亀有駅北口を結ぶ有65系統で、ついに埼玉県を脱出して東京都内に入ります。車両は東武バスセントラル八潮営業所所属の9878号車、2007（平成19）年式の日野ブルーリボンⅡ（PJ-KV234L1）で、今回乗車した1台目と同じ形式と年式ですが、こちらはノンステップバスでした。



八潮駅南口バス停に進入する有65系統亀有駅北口行
東武バスセントラル9878号車（八潮営業所所属、
日野ブルーリボンⅡノンステップ QPG-KV234L3）

東京23区内を走行する路線バスは、基本的に前乗り先払い方式ですが、この系統は埼玉県の営業所の車両を使用しているため、後乗り後払い整理券方式が採用されています。八潮駅南口と亀有駅北口との間には、乗車した有65系統のほかに経由地の異なる有64系統も運行されていますが、こちらは日祝日全便運休となります。亀有駅では「両さん」がお出迎えしてくれました（笑）。亀有駅からの東武バスは、乗車してきた八潮駅行のほかに王子駅行と三郷中央行がありますが、どちらも1日1～2便しかなく時間も合わなかったもので、隣の金町駅まで電車で移動します。



亀有駅では両さんがお出迎え（笑）

9台目 金町駅南口(15:31)→三郷駅

金町駅には、主力の京成バスとともに都バスと東武バスもやってきます。9台目のバスは、東武バスセントラル三郷営業所所属の6091号車で、2021（令和3）年式のいすゞエルガ（2TG-LV290N3）で、今回乗車するバスでは初めてのいすゞ車でした。東武バスグループでは、営業所ごとにバスのメーカーが概ね指定されており、東武バスウエストとセントラルの主に西部に位置する営業所（草加、八潮）には日野、セントラルの主に東部に位置する営業所（東京都内、千葉県内、三郷、吉川）にはいすゞが多く配置される傾向があるようです。いすゞ車の社番は、千の位が2または6の偶数となっています。



金町駅南口バス停に進入する京成バス8144号車
(金町営業所所属、いすゞエルガノンステップ QPG-LV234L3)



金町駅南口バス停に進入する金52系統大膳橋経由三郷駅行
東武バスセントラル6091号車
(三郷営業所所属、いすゞエルガノンステップ 2TG-LV290N3)

金町駅と三郷駅を結ぶバスは、今回乗車した金52系統（大膳橋経由）のほかに金54系統（中央通り経由）があります。このバスに乗ると、東京都内から再び埼玉県に戻る形になります。実は今回のバス旅の目的地は千葉県ですが、三郷駅から千葉県側に向かうバス路

線が存在しないため、南流山駅まで電車に乗ることにします。

10台目 南流山駅(16:30) →流山おおたかの森駅西口

南流山駅から乗車したバスは、東武バスセントラル吉川営業所所属の2821号車、2009（平成21）年式のいすゞエルガミオ（PDG-LR234J2）で、今回のバス旅で唯一の中型バスによる運行便でした。

南流02系統は、全線にわたり千葉県内を走行する路線ですが、埼玉県内の吉川営業所が運行を担当しており、春日部ナンバーのバスが千葉県内のバス輸送を担う少々珍しい光景が見られます。終点の流山おおたかの森駅西口に到着したところで、この先のバスの時間的な都合上、柏駅までは電車移動となりました。



南流山駅を発車する南流02系統流山おおたかの森駅西口行
東武バスセントラル2821号車（吉川営業所所属、
いすゞエルガミオノンステップ PDG-LR234J2）

11台目（最終） 柏駅東口(17:50)→布瀬



柏駅東口に佇む柏25系統布瀬行 東武バスセントラル6105号車
(沼南営業所所属、いすゞエルガノンステップ 2TG-LV290N3)

今回のバス旅の目的は、「東武バスを西の端から東の端まで1日で乗り倒す」というものでした。よって、



東武バス一般路線最東端のバス停「布瀬」に到着



終点のバス停布瀬に到着後、バスは柏駅東口まで来た道を戻ります

東武バス創立20周年記念 土日1 DAY PASS 乗車記録^{注)}

路線数	運行会社	営業所	起点	発車時刻	終点	系統番号	延長 (km)	バス停 (箇所)	所要時間	運賃 (円)	
										現金	IC
1	ウエスト	川越	東松山駅	7:47	川越駅	川越02	20.0	39	0:53	640	639
2		上尾	川越駅	9:15	上尾駅西口	川越06	14.8	37	0:56	570	567
3		大宮	上尾駅東口	10:12	大宮駅東口	大51	8.5	23	0:35	300	294
4		岩槻	大宮駅東口	11:02	さいたま市立病院	大都23	9.1	23	0:41	280	273
5		岩槻	さいたま市立病院	11:45	浦和駅西口	浦31	6.4	18	0:30	310	305
					浦和～川口	鉄道利用					
6	セントラル	草加	川口駅東口	13:10	草加駅西口	川12	9.6	25	0:32	300	294
7		八潮	草加駅東口	13:50	八潮駅北口	草加03	5.5	17	0:28	250	242
8		八潮	八潮駅南口	14:40	亀有駅北口	有65	4.7	12	0:23	240	231
					亀有～金町	鉄道利用					
9	セントラル	三郷	金町駅	15:31	三郷駅	金52	11.6	29	0:42	320	315
					三郷～南流山	鉄道利用					
10	セントラル	吉川	南流山駅	16:30	流山おおたかの森駅西口	南流02	6.4	17	0:25	300	294
					流山おおたかの森～柏	鉄道利用					
11	セントラル	沼南	柏駅東口	17:50	布瀬	柏25	13.7	31	0:42	520	514
合計							110.3	271	6:47	4,030	3,968

注) 所要時間は乗車したバスの時刻表1) に基づくものであり、同一路線でも日時や道路事情等によって異なる
 運行会社 ウエスト：東武バスウエスト株式会社、セントラル：東武バスセントラル株式会社
 営業所 川越、大宮、草加：営業事務所、その他：営業所

目的地は東武バス一般路線最東端のバス停である「布瀬」となります。空港連絡バスを含めると、東武バス最東端のバス停は「成田空港」となりますが、2023年2月現在、新型コロナウイルス感染症の影響により全便運休であることと、今回使用しているフリーきっぷを利用できないことから、目的地としては除外しました。

柏駅東口から当日乗車した11台目の最後のバスは、東武バスセントラル沼南営業所所属の6105号車、2021（令和3）年式のいすゞエルガ（2TG-LV290N3）で、当日乗車した9台目と同じ形式・年式でした。終点のバス停「布瀬」に到着する頃には、すっかり日が暮れていました。運転手とマニア1名を乗せたバスは、布瀬から柏駅まで来た道を戻りました……。

ここまで述べてきたバス旅の乗車記録をまとめてみました。1日で約110km、乗降・通過バス停271箇所、推定乗車時間6時間47分（定時運航の場合）、以上の

行路の運賃（バス料金）をすべて現金で支払った場合は4,030円かかりますが、今回は500円のフリーきっぷと電車賃でバス旅を堪能させていただきました。

おわりに

今回は、バスをお得に乗れるフリーきっぷを使用したバス旅について記事を書いてみました。記事を書いている途中まで、現在の東武バス最西端のバス停は東松山駅と信じて疑わなかったのですが、実は埼玉県日高市にある「サイボク」というバス停であることが判明し、次はそこに行かなければと思っています（笑）。

最後までお読みくださいまして、ありがとうございました。

【参考文献】

1) 東武バス On-Line, <https://www.tobu-bus.com/>